社会福祉法人 父の樹会 広報

法人 父の樹

第 25 号　2022 年　2 月 1 日

発行／社会福祉法人父の樹会
発行者／理事長　篠塚　勝夫
〒263-0001 千葉市稲毛区長沼原町 321-2
TEL：043-250-5992　FAX：043-250-5982

特集　地域とともに

社会福祉法人父の樹会は千葉大学教育学部附属特別支援学校（以下、「附属特別支援学校」）の在校生と卒業生の保護者で構成する「障害児者の将来を守る父の樹会」（弊会での通称：長い会）が中心となって 1987 年（昭和 62 年）に設立され、今年で３５年目を迎えます。人間に例えれば「働き盛り」の年代ですが、この間、子供たちの卒業後の居場所造りとして、通所、入所、グループホーム等の各種福祉事業所の整備を進め，本人・家族が将来にわたって安心できる環境整備に役職員一体となって邁進してきました。

こうした中で、近年、社会福祉法人制度改革の下に「地域公益的取組」が強く求められています。もとより、社会福祉法人自体が「公益的取組」を主眼とする事業体であり、言われるまでもないことではありますが、改めて「地域」という視点で見つめてみることとしました。その際「地域」をどう捉えるかについては種々の見方がありましょうが、ここでは各事業所が立地し、生活協同圏域にある地域といった程度で考えてみます。

とすると、弊法人では地域の農業者等と連携した食品加工、公園や近隣の清掃活動、パン工房を介しての地域住民との連携、町内会や事業所行事等への相互参加、等々が挙げられます。それに、父の樹会として最も関わりの深い地域・隣人は附属特別支援学校であり、学校と一体になった「ふよう祭」（文化祭）の開催はまさに「地域とともに」の象徴ともいえますし、長い会はじめ父の樹会グループと学校の連携で月次開催の「青年学級」も誇らしい活動です。

歴史的にも地理的にも隣接する附属特別支援学校との連携を基本に、今後、近隣・周辺地域との関わりをさらに拡充し、「地域とともに」ある父の樹会としての活動を積極化して行きたいです。

地域共生に向けて「加曽利貝塚ともに生きるプロジェクト」

おおぞら園は、「加曽利貝塚ともに生きるプロジェクト」のメンバーとして地域活動に参加しています。このプロジェクトは、どんぐりを使ったクッキーを通じ、①市民と福祉事業所との協働、②障害者の工賃向上、③加曽利貝塚のお土産つくり、を目指すものです。

先年、おおぞら園を見学された方とのやり取りの中で、「就労系事業所の抱える工賃向上、モノづくりの課題に一石を投じたい」という想いから生まれました。おおぞら園はこのプロジェクトの立上げに関わり、主力商品のどんぐりクッキーの開発から携わり、育んできました。

プロジェクトがスタートして２年目になり、幼稚園児たちによるどんぐり拾いや市民参加のどんぐり拾いのイベントの開催、マルシェ等での地域交流を図ってきました。

また、市

民の参加だけではなく、どんぐりクッキーの製造過程を市内の福祉事業所で分担すること等、このプロジェクトを通じて多くの方が参加し、地域共生という一つの輪を作りたいと考えています。

最近では、雑誌やＴＶで紹介されたこと、市内の美術館やカフェでの取り扱い店舗も増えたことで、おおぞら園や多くの福祉事業所が「どんぐり」をツールにして地域共生の活動を展開しています。まだまだできることは小さいかもしれませんが、これからもおおぞら園の地域での役割、おおぞら園から地域へと発信していく取り組みを大切に、地域共生の輪を大きくしていきたいと思っています。ぜひ、次のホームページも覗いてみてください。

https://kasorikaizuka.com

青年学級活動による余暇活動支援 附属特別支援学校との連携

当法人の設立母体である親の会「障害児者の将来を守る父の樹会」（弊グループ通称：長い会）が主催する活動として「青年学級」があります。青年学級は、会員の余暇活動支援として通常月次で開催されますが、現在はコロナ禍のため、残念ながら休止中です。

活動内容は、ソフトボール、キックベース、調理、手芸などのクラブ活動を行うとともに、同窓会やクリスマス会、成人式、バス旅行などを実施しています。加えて、附属特別支援学校の運動会や「ふよう祭」（写真はコロナ以前のもの）に参加するなど、活動は多岐にわたっています。

毎回の青年学級とも大勢の子ども達が参加し、貴重な余暇活動の場となっています。

また、当活動の支援者は、附属特別支援学校の先生や当法人の職員を含め、長い会の役員が中心となっており、会場は主として附属特別支援学校の施設をお借りして行っています。

賑わう「ふよう祭」

このような青年学級は、まさに、附属特別支援学校の校内から長い会が誕生し、さらに近隣地に法人やＮＰＯの事業所開設に至ったという歴史的な経過を反映したものであり、学校と父の樹会グループとの地域連携の実践の賜とも言えると思います。こうした経過を踏まえつつ今後とも将来に向けて力強く歩みを続けたいと思います。

クリスマス会

地域の農林業との繋がりを求めて

あけぼの園では、今年度から地域の農林業と繋がることを通じ、新しい製品作りに取り組んできており、紹介をします。

近隣の梨園さんとの連携

四街道市大日の周辺に梨園が１１件ほどあり、稲坂梨園さん、中島梨園さん、梶原梨園さんの３軒の梨園さんと繋がりました。梨は果肉に障害が生じると、柔らかくなってシャキシャキ感が失われ、食味が大きく低下します。

これを梨の密(みつ)症と呼び、リンゴの蜜と同様に食べることができますが、品質が落ちることから、１軒の梨園さんで１日当たり段ボール１箱分相当の梨が廃棄される現状です。そこで、私たちはこの蜜症の梨を使って、食品加工科として何かできないか話し合い、梨の廃棄ゼロを目指して、チップス、ジャム、梨の皮を使ったパウンドケーキを考案し、製造することにしました。梨ジャムは梨の味がしっかりしていてお客様から好評でした。

こだわりの米粉　米粉によるケーキ作りです。パティシエの実川さんに協力を経て、バター・ベーキングパウダー不使用の米粉のパウンドケーキやシフォンケーキが完成しました。米粉・卵・さつまいも等は千葉県産を意識して、わくわく広場や隣の特別支援学校から野菜を購入して製造しました。メインの米粉は、匝瑳市にある米農家の行木（ゆうき）さんが【減農薬、有機質肥料使用、低温保存】というこだわりを込めて作った米から米粉製品に仕上げています。また、ブランド米「里山米」としても販売していますので是非ご賞味ください。

米農家行木さんご一家

地域の農家等と連携したチップスづくり　佐倉市の蓮根農家の松本蓮園さんから委託を受けて蓮根チップスを製造しました。また、「タンジョウ農場さん」と繋がり、人参・菊芋・さつまいもチップスの製造をしてきました。

こうした色々なつながりを通して輪が広がり、農福連携に強い気持ちが芽生えてきました。そこで、あけぼの園の園芸科と協力し、農薬を使わない野菜でのチップス作りや、親芋のコロッケ・唐揚げ等の総菜作りをしています。

県産間伐材による木工品の製作　千葉県大多喜町の国有林から伐採された間伐材を使用してパズルや引き紐、千葉県キャラクター「チーバくん」ストラップ等の製品を作っています。間伐材には、イチョウ、槐、檜、桐等の種類があり、それぞれの特徴を活かしています。皆様には是非手に取っていただき、国産木材の感触や匂いなども楽しんでいただけたらと思います。

近隣の方の憩いの場 パン工房イートインコーナー

父の樹園「パン工房」では、製造したパンの店頭販売を行っており、店舗内にイートインコーナーを併設し、その場で召し上がるお客様にはコーヒーのサービスも行っていました。加えて、前庭の芝生にテーブルと椅子席を設け、野外でも少人数での歓談ができるようにしています。このため、近隣のスポーツ施設等からの帰途に立ち寄ってくださる近隣の方が軽食と歓談を楽しんでいる姿を見受けられます。

イートインコーナー

現在はコロナ禍のため工房での飲食は休止していますが、こうしたパン工房を通じての地域の皆さんとの触れ合いは、工房のスタッフにとって大きな励みとなっているので、早く新型コロナウイルス感染症が収束し、交流が復帰できることを願っています。

ガーデンフェスタで地域の皆さんと

ガーデンセブン恒例の行事として、秋のシーズンに実施しています。 ガーデンセブンのグラ

ンドに市内の福祉関係事業所や、地域のボランティア団体が集まり、模擬店やステージアトラクション発表などが行われます。　地元の大野町内会をはじめ、土気地域の皆様と一緒に楽しい一日を過ごす機会となっています。（令和元年は施設が豪雨被災により中止、令和 2 年,3 年は感染対策のため利用者と職員のみで実施しました。）

今年度は 10 月 28 日(木)に開催しました。コロナ対策のため、今年も規模を縮小しての開催でした。午前中は、利用者自治会の有志発表とサークル対抗でボール運びリレーを行いました。午後は、カラオケと抽選会を室内で行い、中庭に出てお神輿を担ぎました。獅子舞も登場して会場はとても盛り上がりました。

当日は、天気に恵まれ中庭での活動時寒さを感じることなく楽しめました。

2018 年より前のフェスタは、中庭に大きなステージを作り、そこでカラオケやサークル発表などを行いました。外部参加の方による出店、紙すき班・手工芸の製品販売、下請け班の飲み物販売など、ステージ以外の場所も賑わっていました。ある年は、運動サークル主催で体力測定を体験できるコーナーで運動サークルの記録に挑戦したり、和太鼓のリズムに合わせて踊ったりもしました。開会式の演出や会場の装飾も毎年テーマに合わせて趣向を凝らしています。

一日でも早くコロナが終息して以前のようなフェスタが出来る日を楽しみにしています。

近隣公園での清掃活動

父の樹園では毎月第三木曜日に、日頃より体力作りのジョギングで使用している「山王町公園」、「山王ふれあい公園」で清掃活動を行っています。

主な内容は、公園内の散歩コース周辺や公衆トイレ付近、遊具周りやベンチ等に落ちているごみ拾いです。ごみ袋を広げ持つ方、トングでごみを拾う方と分担して活動を行っており、利用者同士で協力して取り組む姿が印象的で、20 年近く継続しています。

周辺との交流
環境整備とポスティングを通じて

あけぼの園では、かねてからエントランスの花壇の美化活動に注力してきましたが、昨年 10 月からは園周辺や近くのバス停までの道路のごみ拾い等の環境美化活動をスタートしました。

併せてポスティングを行って食品加工科の製品を紹介しました。すると、早速、来園されて製品を購入して下さった方やＦＡＸでの注文をする方もいました。実際に製品を手にして味わっていただくことが、私たちの大きな励みになっています。

利用者の皆さんから

あけぼの園

―波入厚太さん「木工科」―

波入さん：「あけぼの園の木工科に所属している波入厚太です」
支援員：「お仕事は楽しいですか？」
波入さん「お仕事は楽しいです。切り出しの仕事をしています」

支援員　：　「あけぼの園で楽しいことは何ですか？」
波入さん：　「旅行に行ったり、納会で外食をしたりするのが楽しみです。コロナが収まったら、行きたいです」
支援員　：　「絵をかくのも好きですか？」
波入さん：　「絵をかくの好きです。絵の教室も通っていました」

支援員から～

波入さんの作品は、あけぼの園の食堂や玄関に飾ってあるので、機会があればご覧ください。

あけぼの園の木工製品のほとんどを波入さんの切り出しで仕上げていますので、機会があれば手に取っていただけると嬉しいです

―大塚和嗣さん「園芸科」―

朝食後暫くすると、27 歳の言葉を持たない息子が玄関に座り込み、《早くあけぼの園に行きたいよ‼》とアピールする。その背に、「リュック持って来て～」「エプロン持って来て～」と支度しながら時間を稼ぐ私。早く登園したいために、その声に甲斐甲斐しく応じる姿に、園生活での充足感をしみじみ感じる時でもあります。

コロナ禍の影響で、余暇は自宅で過ごす時間が圧倒的に増え、ままならない状況に、奇声や自傷他害も増えていきました。どうしたって親の目は一人息子に集中、煮詰まる我が家。長いことペットロスだったけれど、6 年ぶりの犬との暮らしが風穴となるのではないか？息子は先代犬に…ヤキモチを妬いていたなぁ～、吠えると逆に大きな音を出して威嚇していたなぁ～、でも、可愛がってもいたなぁ～。楽しい思い出と新しい暮らしへの不安、色々あるけれど今だからやってみよう。半年待った頃、先代犬に良く似た仔が我が家にやって来てくれました。

2 度目の犬との暮らしでの息子の変化…気になりませんか？　吠えてもイタズラしても怒りません、ニヤニヤして見守っています。ヤキモチなんて妬きません、家族で孫⁉（誰の？って突っ込まれそうですが）を育てているような気分です。自傷他害なくはないです、奇声は変わりません、出すときゃ出すんだなぁ…トホホ。でも、可愛がる姿を見られて良かったです。これに尽きるかも…

あけぼの園の中村一枝さんが永年勤続表彰されました。

私があけぼの園に着任したのは、平成 3 年 4 月でした。当時は利用者 30 名、支援員 6 名、アットホームな雰囲気の中でスタートしたことを記憶しています。

あれから 30 年、あけぼの園も大所帯となり、私が働き始めてから生まれた若い職員と今一緒に仕事をしていることを改めて思うと感慨深いものを感じます。この長い年月の間には、楽しいことも失敗したことも様々ありました。私が落ち込んでいるとき心配して顔を覗き込んでくれた利用者さん、失敗しても優しく許してくださった親御さん、大変なとき励まし手伝ってくれた職員の皆さん、私は、この大勢の方々の支えがあったからこそ、今日までやってこられたのだと深く感謝しております。

新役員の紹介とご挨拶

この度、小柴友幸さんが初代の「業務執行理事」に、また、宇田川恵美さんが女性職員として初めて理事に就任しましたので、ご紹介を申しあげます。

社会福祉法人父の樹会は、設立ご３５年目を迎えています。私は 3 代目の理事長になりますが、歴代いずれも保護者から選出されています。このためもあってか、職員の感覚としては、法人経営は保護者が中心になって行うもので、職員はその方針のもとに忠実に事業所運営を行うことが務めである、との考えが強い、否、強過ぎるように思います。３０余年の歴史を持つ法人であり、障害福祉事業のプロフェッショナルが十分育っていますので、わが法人もそろそろ「創業期」を脱し、福祉のプロがもっともっと法人運営の中枢を占めるべきと思います。

そのような観点から、「業務執行理事」を設置することとし、昨年 10 月に小柴さんが就任しました。小柴さんは「あけぼの園」勤務ののち「グループホーム」の立上げや「おおぞら園」の開設など豊富な経験のもとに大きな業績をあげてきており、法人全体の舵取り役として存分に活躍してくれるものと確信しています。

同時に、理事の世代交代を機に、あけぼの園部長の宇田川さんに女性職員を代表する立場から理事に就任いただきました。宇田川さんは転職組で法人勤務歴はそう長くはありませんが、むしろ幅広い職務経験を活かしてもらえると思います。保護者代表の原貴子理事とともに法人運営に女性の視点をより生かし、働きやすく、働きがいのある職場・法人づくりに大いに貢献していただけるものと期待しています。

理事長　篠塚　勝夫

業務執行理事
小柴　友幸

この度、業務執行理事に就任いたしました小柴です。どうぞよろしくお願いいたします。私は淑徳大学で社会福祉学を学び平成 8 年にあけぼの園に入職。現場での経験を積みながら平成 16 年からグループホームの開設と運営、平成 27 年からはおおぞら園の創設と運営に携わる機会を得てあっという間に 25 年が過ぎました。現在弊法人は保護者による法人運営から施設職員に

よる経営へとシフトする大きな変革期を迎えようとしております。今回創設された業務執行理事というポストに就くにあたり、新たな法人経営の礎となることができるのか、私にそれだけの能力があるのかどうか自問自答の日々が続いております。

欲張りかもしれませんが、業務執行理事であると同時に生涯現場人間でもあり続けたい、利用者や保護者、現場の職員の声にしっかりと耳を傾け、福祉に大切なものを見失わない強い気持ちを持つことで、私らしく職務を邁進したいと思います。

故野村克也氏の名言に【夢や希望を抱くことは、「感じること、考えること」の出発点】、【念ずれば花開く】という２つの言葉があります。社会福祉法人父の樹会の 5 年先、10 年先の姿を描くことから始め、未来を形にできるよう、皆様が彩り豊かな生活を営めるよう、精一杯努めてまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

理　　事
宇田川　恵美

あけぼの園就労継続支援Ｂ型の部長を務めております宇田川恵美です。ご利用者様の皆様、ご家族の皆様にはご理解ご支援をいただき感謝しております。

最近のＢ型の取り組みとして、地域のごみ拾いとともに、Ｂ型の商品広告を園周辺のご家庭に訪問してお渡しする活動をしています。

先日初めて地域の方から商品の注文があり、利用者様と商品をお届けしました。少しずつ地域の方々ともつながりができ、この出会いや縁を大切にしていきたいと考えております。

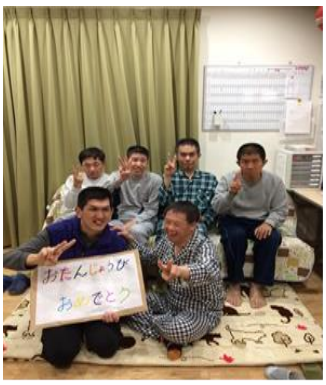
また、法人の常勤理事として 10 月に任命を受け、職員の皆様の声を法人運営に活かしていけるよう取り組んでいます。仕事と家庭の両立や多様な働き方を支援し、働きやすい職場を目指していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

事業所生活のひとコマ

共同生活援助・介護
父の樹

「グループホーム父の樹」の運営するホームは、現在９ホーム、利用者 52 名となっています。ＧＨ父の樹では、共同生活住居を利用者 4 名～7 名定員の小規模にすることで、落ち着いた環境で生活することができるよう配慮しています。また、一部を除き、世話人 2 名態勢とし、手厚い支援を提供できるよう心掛けています。

ＧＨ父の樹では、定期的に誕生日会や季節の行事を開催しており、イベントの日は、普段よりも豪華な食事を提供したり、ゲームを行ったりして、楽しい時間を過ごしていただけるような企画も行っています。現在は、新型コロナウイルス感染症の影響で、規模を縮小していますが、イベントが近づくとその話題に華が



咲き、当日はとびきりの笑顔を見せています。

この写真は、ある誕生会の様子です。撮影後、「黒ヒゲ危機一髪」や「モグラ叩き」ゲームを行い、豪華な誕生日ディナーを楽しみました。

父の樹園

父の樹園では新型コロナウイルスの感染対策を徹底して、土曜余暇活動を毎月実施しております。その中で１０月の土曜余暇活動は一足早いハロウィンパーティを開催致しました。自宅より仮装衣装を持ち寄ったり、工作した衣装を身にまとってレッドカーペットを歩き、お菓子を貰いました。また、各グループで貼り絵を完成させて大きな１枚のかぼちゃ壁画を完成させました。

今後も新型コロナウイルスの感染を懸念しながらも、皆で楽しい時間が過ごせるように企画を検討していきたいと考えております。

人　事　異　動

令和3年12月18日第3回理事会に於いて、次のとおり、人事異動が承認されました。

新　役　職　員　名		旧職務名
○１２月１８日付　委　嘱		
相　談　役	吉　野　　秀　和	前　理事長

○２月１日付　人事異動		
業務執行理事　兼 あけぼの園管理者	小　柴　　友　幸	業務執行理事　兼 おおぞら園管理者
おおぞら園管理者	有　川　　岳　英	あけぼの園管理者

○４月１日付　人事異動		
ガーデンセブン管理者	福　島　　一	ガーデンセブン副管理者
理事・ガーデンセブン駐在	大　原　　淳　一	理事　兼ガーデンセブン管理者

編集後記

今号は「地域とともに」を特集として掲げた紙面となりました。新型コロナウイルス感染症が蔓延して、自粛したために思うような地域での活動ができず制限を余儀なくされた状況でしたので、以前の活動の様子も併せて載せました。

この度、法人内委員会活動の活発化の一環として、「広報委員会」が発足しました。

広報委員会のメンバーは、父の樹園鈴木管理者が委員長となり、委員は、あけぼの園尾竹支援員、父の樹園鬼澤支援員、ガーデンセブン渡邉支援員、おおぞら園荒巻支援員、GH 父の樹岡本支援員で、編集長として本部事務局星野となっています。

委員のメンバーで力を合わせて、よりよい紙面作りに取り組んでいきたいと思います。